

秋の一般公開

開催日: 2012年11月21日(水)

午前のコース: 9:30~12:00(受付 9:15~)
午後のコース: 13:30~16:00(受付 13:15~)

入場無料
雨天実施

ツアー方式
事前申込制

土木学会CPDプログラム認定
認定番号

A・Cコース: JSCE12-0861 (2.5単位)
B・Dコース: JSCE12-0862 (2.5単位)

私達の研究所は生活に深いかわりのある、港湾・海岸・空港の整備や沿岸域の防災、海の環境保全に関する研究を実施しています。今回、研究者による講座と施設見学を行う「研究所ツアー」を開催します。ツアーは4コースを設定しますので、参加ご希望の方は、ご希望のコースをお選びいただき、下記の申込み方法にしたがってお申し込み願います。

コースのご案内

◆Aコース(午前)

9:15(受付)

9:30~10:30(講座)

講座1: 東日本大震災と港湾の役割
国総研: 高田 直和

講座2: 港湾施設の戦略的維持管理
港空研: 岩波 光保

10:30~12:00(施設見学)

長期暴露試験場→三次元水中振動台→
環境インテリジェント水槽→大規模波動地盤総合水路

◆Cコース(午後)

13:15(受付)

13:30~14:30(講座: Aコースと同じ)

14:30~16:00(施設見学: Aコースと同じ)

◆Bコース(午前)

9:15(受付)

9:30~10:30(講座)

講座3: LCCで変わる日本の航空輸送
国総研: 波多野 匠

講座4: 東日本大震災における津波被害と
今後の津波防災について
港空研: 本多 和彦

10:30~12:00(施設見学)

ナウファス→大規模波動地盤総合水路→
油回収実海域再現水槽→航空機荷重載荷装置

◆Dコース(午後)

13:15(受付)

13:30~14:30(講座: Bコースと同じ)

14:30~16:00(施設見学: Bコースと同じ)

申込み方法

★FAX、e-mailのいずれかで、以下の宛先まで必要事項を記入の上申込み下さい。

受付した方には受付票を発行します。

手続きの関係で申込みから1週間程度かかる場合があります。

〒239-0826 神奈川県横須賀市長瀬3-1-1

独立行政法人 港湾空港技術研究所 一般公開事務局

TEL:046-844-5040 FAX:046-844-5072 e-mail:kikaku@ipc.pari.go.jp

★必要事項: 以下の4項目

1)ご希望のコース

各コースとも定員40名です。先着順にコースを割り振りますので、上記A~Dのうち参加希望のコースについて、優先順位をつけてお申し込み願います。

2)参加人数

3)当日の交通手段

駐車できる台数が限られますので、車でのご来場をお断りする場合があります。公共交通機関のご利用にご協力願います。(別添「案内図」「バス時刻表」参照)

4)代表者のお名前、住所、連絡先(Fax 又は E-mail)

★締切: 平成24年11月16日(金)

※定員になり次第締切とさせていただきます。

※個人情報については、参加申込み以外の用途に使用致しません。



主催



国土交通省 国土技術政策総合研究所 <http://www.ysk.nilim.go.jp>



独立行政法人 港湾空港技術研究所 <http://www.pari.go.jp>

講演者紹介

講座1:東日本大震災と港湾の役割

要旨: 東日本大震災では、東北地方の沿岸部は甚大な被害を受けたが、中でも港湾は、震災直後その機能を失うなど壊滅的な状況であった。そのような中で、港湾の啓開作業と復旧に取り組んでいき、徐々に地域の経済活動が戻り、復興が進んできている。これらの状況について紹介する。

講演者: 高田 直和

略歴 昭和63年4月 運輸省入省
平成21年6月 国土交通省港湾局 海岸・防災課 防災企画官
平成23年7月 国土交通省港湾局 海岸・防災課 災害対策室長
平成24年4月 国土技術政策総合研究所 沿岸海洋・防災研究部 津波災害研究官

講座3:LCCで変わる日本の空港輸送

要旨: 本年度、日本国内の本格的LCCとしてピーチアヴィエーション、ジェットスター・ジャパン、エアアジア・ジャパンが相次いで就航を開始した。これらLCCの紹介と、LCCの就航による今後の航空輸送の変化について紹介する。

講演者: 波多野 匠

略歴 昭和62年4月 運輸省入省
平成19年4月 国土技術政策総合研究所 空港研究部 空港施工システム室長
平成21年3月 国土技術政策総合研究所 交通政策分析官
平成23年7月 国土技術政策総合研究所 国際海事政策分析官

講座2:港湾施設の戦略的維持管理

要旨: 港湾施設を含む社会資本の老朽化が問題視されている。港湾施設の老朽化の現状と、今後、どのようにして維持管理していくべきかについて説明する。

講演者: 岩波 光保

略歴 平成11年4月 運輸省入省
平成20年4月 独立行政法人港湾空港技術研究所 構造・材料研究チームリーダー
平成24年4月 独立行政法人港湾空港技術研究所 構造研究領域長

講座4:東日本大震災における津波被害と今後の津波防災について

要旨: 平成23年東北地方太平洋沖地震に伴う津波により、三陸地方沿岸部を中心に甚大な被害が発生した。この津波の特徴や津波被害の概要を紹介するとともに、南海トラフの巨大地震に伴う津波による被害想定などについて紹介する。

講演者: 本多 和彦

略歴 平成16年4月 国土交通省 入省
平成16年4月 独立行政法人港湾空港技術研究所 海洋・水工部 研究官
平成21年9月 国土交通省 中部地方整備局 名古屋港湾空港技術調査事務所 技術調査課長
平成24年1月 独立行政法人港湾空港技術研究所 アジア・太平洋沿岸防災研究センター主任研究官 (緊急災害対策派遣隊員)

ツアーでまわる施設のご案内

- 長期暴露試験場
コンクリートなどの建設材料の耐久性を調べるため、屋外に試験片を置き、定期的に海水をかけるなどして、試験片の変化を長期間観察しています。
- 三次元水中振動台
この施設は、13m角、水深2mの水槽の底に設置された直径6mの振動テーブルを水平2方向・鉛直1方向の3次元で振動させることができます。これにより振動テーブルに設置した模型に地震力を作用させて、水中での地震の影響を研究しています。
- 環境インテリジェント水槽
本施設は、L字方に配置された造波板により多方向不規則波を発生させることが出来ます。実際の海域で見られる力学的な環境(不規則波・流れ場)を再現し、それが港湾構造物に与える影響を研究をしています。
- 大規模波動地盤総合水路 (注意:現在改良工事中で、人工津波はおこせません。過去の実験映像での説明・見学となります。)
長さ184m、幅3.5m、深さ12mの水路で、起こせる波の大きさは、世界最大級の高さ3.5m風波、2.5mの津波を再現することができます。この水路では高波や津波の破壊力などを研究しています。
- ナウファス(全国港湾海洋波浪情報網)
海底に設置した波高計や、沖に浮かべたブイにより、波浪や潮位のデータをリアルタイムで計測・分析し、Webに公開しています。港湾整備事業の実施に必要な波浪、潮位情報を得るために全国で観測を行っています。(Web公開: <http://www.mlit.go.jp/kowan/nowphas/>)
- 油回収実海域再現水槽
水槽は、海水に実際の重油を浮遊させ、波、潮流、風、水温等を実海域に近い条件で油回収機の実験をおこなえる国内唯一の施設です。
- 航空機荷重装置
ジャンボジェット機のタイヤを見てみましょう。この施設は、航空機から繰り返し受ける荷重を再現し、舗装本体が受ける影響を研究しています。